

ため池ハザードマップ

小川谷中池(大池)・小川谷下池

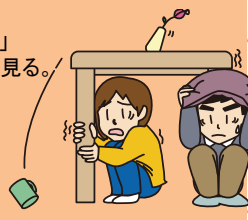


地震 その時10のポイント

(東京消防庁作成)

地震だ！ まず身の安全

- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
 - 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れが納まるまで様子を見る。
- [高層階(概ね10階以上)での注意点]
- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
 - 大きくゆっくりとした揺れにより、家具が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

落ちついて 火の元確認 初期消火

- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火した時は、落ち着いて消火する。



あわてた行動 けがのもと

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦・窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



窓や戸を開け 出口を確認

- 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確認する。



門や塀には 近寄らない

- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

火災や津波 確かな避難

- 地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- 沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。

正しい情報 確かな行動

- ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう 我が家の安全隣の安否

- 我が家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



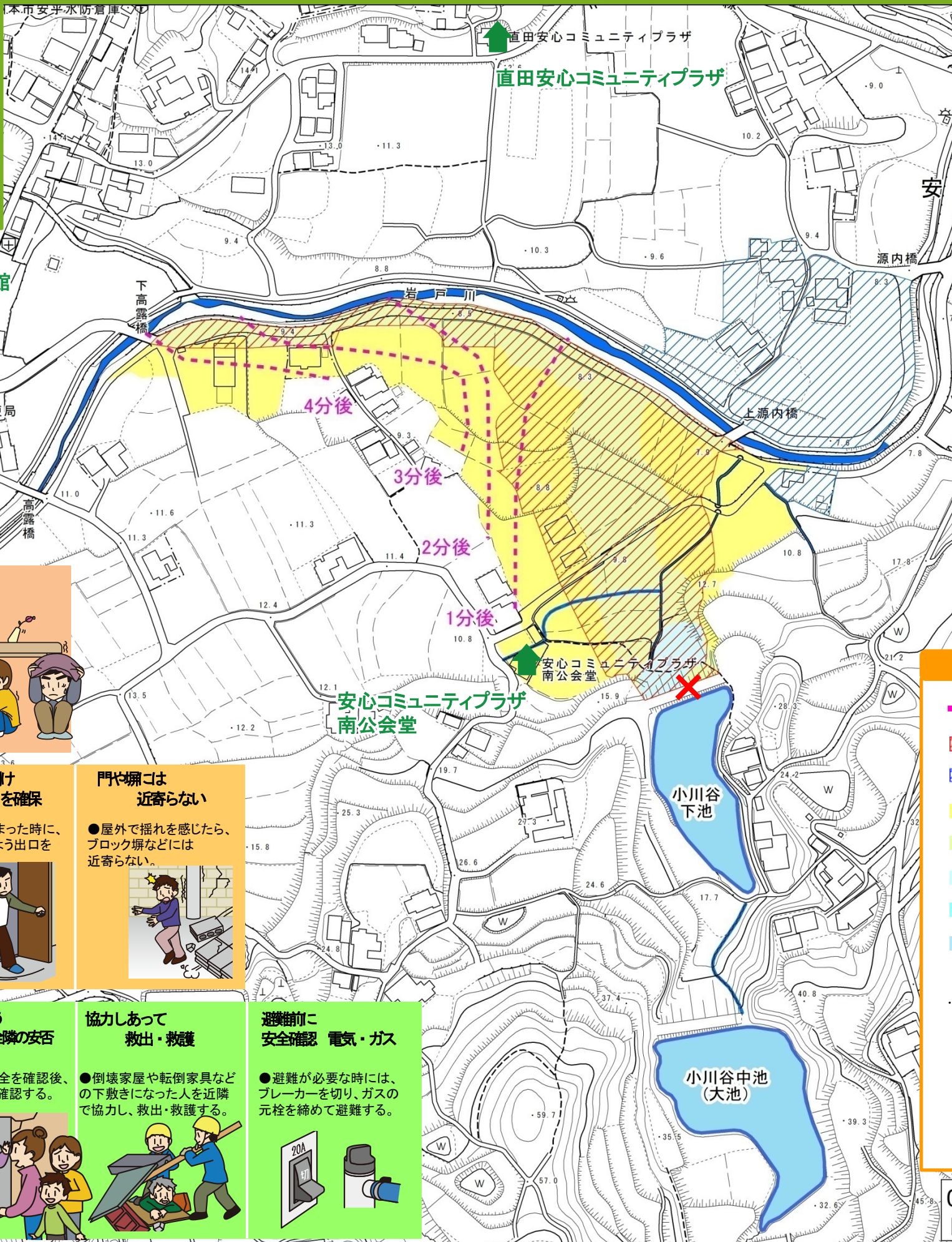
協力しあって 救出・救護

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難前に 安全確認 電気・ガス

- 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



この地図は、農業用ため池の「小川谷中池(大池)」「小川谷下池」が、地震などによって大きな被害を受け、ため池の堤防が決壊し、「小川谷中池」と「小川谷下池」の両方の貯水量の水が流れ出て、洪水が発生した場合を想定し、そのはん濫水が到達する可能性のある区域と、予想される浸水の深さを表示したものです。

また「注意の必要な範囲」は地盤が低く、ため池や河川の状況によっては注意が必要となる範囲です。

実際のはん濫水の影響のある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害の程度、周辺の土地利用状況等により、これと異なる可能性もありますが、地震が発生したら「まずは安全な場所に逃げる」とが何よりも大切です。

地域の皆さんでこの地図をご活用いただき、地震時の安全確保に努めてください。

凡例

- 到達時間
- 歩行困難区域
- 注意の必要な範囲
- 0.5m未満
- 0.5~1.0m
- 1.0~2.0m
- 2.0~3.0m
- 3.0~4.0m
- 想定した破堤地点
- 指定避難所・緊急指定避難場所
- その他の避難施設
- 消防署・消防団施設
- 交番・駐在所